

第3回 環境セミナー

有機農業のその先へ～

地球と人間の健康を考える

～「自然再生」の広げ方



昨年、一昨年の環境セミナーで、有機農業はカーボンニュートラルの実現に確かな方法であることが証明されました。今年度は、この農法を全国に広げるにはどうすればよいかを明らかにしていきます。

- 日 時：令和8年2月11日（水・祝）
13:30～15:30（受付開始 13:00～）
- 場 所：へきしんギャラクシープラザ 3階大会議室
(安城市文化センター)
- 定 員：100名
- 対 象：18歳以上
- 参加費：無料



〈第1部 取り組みと提言〉

13:35～14:35

講師：松澤政満氏、野中慎吾氏、吉野隆子氏

〈第2部 パネルディスカッション〉

14:40～15:20

パネリスト：松澤政満氏、野中慎吾氏

コーディネーター：吉野隆子氏

- 申込：1月6日（火）から受付開始＊先着順

柿田公園管理事務所「エコきち」へ

電話（0566-98-3784）

またはQRコードからお申し込みください。



主 催：安城市

企画運営：柿田公園管理事務所「エコきち」

指定管理者エリアワン・エコネットあんじょうグループ

共 催：認定特定非営利活動法人地球温暖化対策地域協議会

エコネットあんじょう

～ パネルディスカッション ～

脱炭素社会の実現には、工業的に解決する方法もあるが、人間によって破壊された自然を再生する取り組みが注目されている。過去2回のセミナーでは有機農業の有効性が実証されたが、今回はその先へと視座を広げる。令和7年度第3回環境セミナーでは、第1部で自然再生につながる有機農業の実践例を提案し、第2部ではこの取り組みを地域社会へ広げる様々な方法を明らかにしながら、カーボンニュートラル達成への道筋を探る。

出演者プロフィール

パネリスト



松澤政満氏

静岡大学農学部卒。愛知県新城市の福津農園で不耕起直播き草生栽培を実践。畑は耕さない。化学肥料や農薬は使わない。畑は多品目少量生産。多くの品種と草があることで生態系のバランスを取り、病害虫対策になる。虫や微生物の力を活かすのだ。これからは持続可能で健康幸福な農業に取り組まなくてはならない。そのためには生態系豊かな生物と協働する農業をやる必要があると説く。2009年度に農林水産大臣賞、2021年に中日農業賞特別賞、2024年山崎記念農業賞、2025年日本有機農業学会実践賞を受賞。



野中慎吾氏

岐阜県七宗町生まれ。名古屋学院大学外国語学部卒、オイスカ開発教育専門学校の時フィリピンのミンダナオ島で海外研修。その後、豊田市勘八町にあるオイスカ中部日本研修センターに就職。豊田市のスーパー「やまのぶ」山中会長と、農業生産法人みどりの里を立ち上げ、自然栽培米、イチゴの無農薬栽培に成功。福祉施設「無門福祉会」と農福連携を実現している。

コーディネーター



吉野隆子氏

オアシス21オーガニックファーマーズ朝市村村長、あいち有機農業推進ネットワーク代表。

朝市村は東海地域で栽培された有機の農産物を販売する場として、2004年10月から毎週土曜日に開催。新規就農希望者の支援にも力を入れている。

2016年3月、朝市村が「日本農業賞」食の架け橋の部大賞・農林水産大臣賞受賞、同年12月愛知農業賞受賞。